

## 施策目標 3 - 2 大学などにおける教育研究基盤の整備

〔国立大学等施設を重点的・計画的に整備し、大学などにおける教育研究基盤の整備を図る。(18年度・22年度)〕

### 主管課(課長名)

大臣官房文教施設企画部計画課(課長:岩立 忠夫)

### 関連課

高等教育局国立大学法人支援課(課長:藤原 誠)、同専門教育課(課長:永山 裕二)、  
同医学教育課(課長:三浦 公嗣)、  
研究振興局学術機関課(課長:森 晃憲)

### 評価の判断基準

判断基準 1	各達成目標の結果から総合的に判断(S=4、A=3、B=2、C=1として計算)
	[評価点=(指標3-2-1)×0.5+(指標3-2-2)×0.25+(指標3-2-3)×0.25]
	S=3.4~4.0
	A=2.6~3.3
	B=1.8~2.5
C=1.0~1.7	

### 平成18年度の状況

国立大学等施設を重点的・計画的に整備するために「第3期科学技術基本計画」(平成18年3月閣議決定)を受け平成18年4月に「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画」(以下「第2次5か年計画」という。)を策定した。実施に当たっては、国による支援を基本としつつ、国立大学等による弾力的・流動的に使用可能なスペースの確保などの施設マネジメントや、寄附・自己収入による整備などの自助努力による新たな整備手法での整備などのシステム改革を推進することとした。

平成18年度は、第2次5か年計画(計画期間:18年度-22年度までの5年間)の初年度であり、施設整備に関しては、整備目標のうち「老朽再生整備」、「狭隘解消整備」については、想定どおり達成できなかったが、「大学附属病院の再生」については、想定どおりに達成したことから「B」(おおむね順調に進捗しているが、一部については進捗にやや遅れが見られる)評価とした。

また、教育研究施設における共同利用スペースは141万㎡確保し、新たな整備手法による整備については509件実施され、これらについては想定どおり順調に進捗したことからそれぞれ「A」(想定どおり順調に進捗)評価とした。

各達成目標の結果は、「B」、「A」、「A」、であり、 $(2 \times 0.5 + 3 \times 0.25 + 3 \times 0.25) = 2.5$ であった。

### 評価結果

B

### 今後の課題及び政策への反映方針

平成18年度の結果を踏まえ、第2次5か年計画の整備目標のうち、進捗状況の遅れている「教育研究基盤施設の再生」としての「老朽再生整備」、「狭隘解消整備」を一層推進するとともに、国立大学等が取り組む自助努力による新たな整備手法による整備などのシステム改革の一層の推進を図る。

#### 予算、機構定員要求等への考え方

第2次5か年計画を達成するために、引き続き、国立大学等施設の整備を推進する。なお、事業の選定に際しては、国立大学等におけるシステム改革に関する取組状況も評価に反映する。

### 関係する施政方針演説等内閣の重要政策(主なもの)

世界一流の優れた人材の育成や創造的・先端的な研究開発を推進し、科学技術創造立国を実現するためには、大学・公的研究機関等の施設・設備の整備促進が不可欠であり、公共的施設の中でも高い優先順位により実施される必要がある。(第3期科学技術基本計画<抜粋>)

### 関連達成目標

特になし

### 備考

事業の選定に当たっては、必要性・緊急性や教育研究の活性化状況などについて、有識者(国立大学法人等施設整備に関する検討会)の評価に基づき、客観的で公平性のある資源配分を行っている。

また、科学技術政策担当大臣・総合科学技術会議有識者議員による概算要求における科学技術関係施策の優先順位付けにおいては、「本事業は極めて重要なものとして計画的・積極的に実施する必要がある」との見解を得ている。

### 政策評価担当部局の所見

達成目標3-2-1及び3-2-3について、判断基準を数値化することにより、明確化することを検討すべき。

## 達成目標 3 - 2 - 1

第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画に基づき、国立大学等の施設整備を重点的・計画的に整備する。  
(18年度・22年度)

### 1. 評価の判断基準

指標の結果から判断する。

判断基準 1	3つの整備対象別の整備目標に対する達成度合い
	S = すべてが当初想定していたどりの水準であり、かつ、一部について当初想定していた水準の120%以上
	A = すべてが当初想定していたどりの水準
	B = 一部について、当初想定していた水準の80%を下回っている
	C = すべてが当初想定していた水準の80%を下回っている

### 2. 平成18年度の状況

平成18年度は第2次5か年計画の初年度であり、指標を踏まえた分析を行った結果、3つの整備目標のうち「教育研究基盤施設の再生」としての「老朽再生整備」、「狭隘解消整備」は、想定どおり達成できなかったが、「大学附属病院の再生」は、想定どおり達成したと判断する。

(指標)

整備対象別		18	19	20	21	22
教育研究基盤施設の再生						
・老朽再生整備(万㎡)	実績	31(39%)				
	整備目標	80	160	240	320	400
・狭隘解消整備(万㎡)	実績	12(75%)				
	整備目標	16	32	48	64	80
大学附属病院の再生(万㎡)	実績	11(92%)				
	整備目標	12	24	36	48	60

四捨五入の関係で、「5. 主な政策手段」の合計と合わない場合がある。

出典：達成目標は「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画」(平成18年4月18日)による。実績値は文部科学省調べ。

### 3. 評価結果

B

### 4. 評価結果の政策への反映方針

平成18年度の結果を踏まえ、達成状況がやや遅れている「教育研究基盤施設の再生」としての「老朽再生整備」、「狭隘解消整備」の一層の推進を図る。

#### 予算、機構定員等への考え方

第2次5か年計画を達成するために、「老朽再生整備」を最重要課題とし、国立大学等施設の整備を推進する。なお、事業の選定に際しては、国立大学等におけるシステム改革に関する取組状況を評価に反映する。

### 5. 主な政策手段

名称(18年度予算額(百万円))	概要	18年度の実績	20年度予算要求への考え方
国立学校施設整備事業 (89,610百万円) 平成17年度補正予算	「第2次国立学校等施設緊急整備5か年計画」に基づき、国立大学等施設の重点的・計画的整備を図る。 平成18年度事業評価(新規・拡充事業)実施対象	5か年計画に基づき、40万㎡の重点的・計画的整備を図った。 教育基盤研究施設の再生 ・老朽再生整備 : 25万㎡ ・狭隘解消整備 : 4万㎡ 大学附属病院の再生 : 11万㎡ 平成17年度補正予算(30,382百万円)分を含めた実績 単位未満を四捨五入して標記している。	継続
国立大学等の自助努力に基づく新たな整備手法の推進 (3-2-3参照)	寄付・自己収入による整備等、国立大学等の自助努力による新たな整備手法の推進を図る	国立大学等の自助努力による施設整備を図った。 (5か年計画ベース) 教育基盤研究施設の再生 ・老朽再生整備 : 6万㎡ ・狭隘解消整備 : 9万㎡ 大学附属病院の再生 : 0万㎡ 単位未満を四捨五入して標記している。	

## 達成目標 3 - 2 - 2

全学的視点に立ったスペースの弾力的・流動的な活用等の施設マネジメントを推進する。  
(18年度・22年度)

### 1. 評価の判断基準

指標の結果から判断する。

判断基準	前年度と比較した共同利用スペースの保有状況
	S = 大幅に増加した
	A = 増加した
	B = 減少した
	C = 大幅に減少した

### 2. 平成18年度の状況

指標を踏まえた分析を行った結果、国立大学等が全学的視点に立った施設マネジメントを推進し、教育研究施設における共同利用スペースは全体で141万㎡保有され、前年度と比較し、想定どおり順調に進捗したと判断する。

#### (指標)

	(17)	18	19	20	21	22
教育研究施設における共同利用スペース(万㎡)	125	141 (113%)				

( )内は前年度に対する増加率

出典：実績値は文部科学省調べ。

### 3. 評価結果

A

### 4. 今後の課題及び政策への反映方針

引き続き、国立大学等における全学的視点に立った施設マネジメントの推進を図る。

その際、共同利用スペース確保などの施設マネジメントに関する情報提供を行うとともに、施設マネジメントに関する取組状況を評価対象とする。

### 5. 主な政策手段

名称(18年度予算額 (百万円))	概要	18年度の実績	20年度予算要求への考え方
国立大学等の施設マネジメントの推進	共同利用スペースの確保等、国立大学等における全学的視点に立った施設マネジメントの推進を図る	事業採択時の評価項目の1つとし、取り組みを促した。 国立大学等の施設担当者を対象とした説明会で取組事例を紹介するなど、情報提供を行った。	

## 達成目標 3 - 2 - 3

寄附・自己収入による整備など、国立大学等の自助努力に基づいた新たな整備手法による施設整備を推進する。(18年度・22年度)

### 1. 評価の判断基準

指標の結果から判断する。

判断基準	基準年度と比較した新たな整備手法による施設整備の実施件数
	S = 大幅に増加した
	A = 増加した
	B = 減少した
	C = 大幅に減少した

### 2. 平成18年度の状況

指標を踏まえ分析を行った結果、新たな整備手法による整備が509件実施され、基準年度と比較し、想定どおり順調に進捗したと判断する。

(指標)

	(17)	18	19	20	21	22
新たな整備手法による整備状況(件)	458	509 (111%)				

( )内は基準年度に対する増加率

出典：実績値は文部科学省調べ。

### 3. 評価結果

A

### 4. 評価結果の政策への反映方針

国立大学等が取り組むスペースの弾力的・流動的な活用等の施設マネジメントや、寄附による整備などの自助努力に基づいた新たな整備手法等のシステム改革を一層推進する。

その際、事例集の作成などによる情報提供を行うとともに、国費による国立大学等の施設整備事業の採択に際し、国立大学等における自助努力に基づく新たな整備手法の取組状況を評価対象とする。

### 5. 主な政策手段

名称(18年度予算額(百万円))	概要	18年度の実績	20年度予算要求への考え方
国立大学等の自助努力に基づく新たな整備手法の推進	寄附・自己収入による整備等、国立大学等の自助努力による新たな整備手法の推進を図る	新たな整備手法における整備状況 : 509件 ・寄附による整備 : (72件) ・地方公共団体との連携による整備 : (25件) ・他省庁、独立行政法人、財団法人等との連携による整備 : (19件) ・借用による学外スペースの確保 : (29件) ・自己財源等による整備 : (364件) 事業採択時の評価項目の一つとして取り組みを促した。事例集を作成し各国立大学等に配布した。	